

年頭所感

新年挨拶



おおさか市町村職員研修研究センター所長 齊藤 慎

平成23年の年頭にあたり、新年のご挨拶を申し上げます。

皆様には、良き新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年後半から、まだまだ不安定な経済状態の時期が続いており、今後の行方が心配されています。エコポイントなどの景気対策の終了や、アジア諸国の景気減速の可能性、ヨーロッパ諸国における財政問題などの不安要因が目白押しです。これらの諸問題に対処するために、各国が政策協調する必要があります。景気悪化を避け、今年こそは幸せな人が増えてほしいと切に願っております。

「幸せ」は個人の主観的な評価ですので、個人ごとに異なりますし、心理学的・哲学的なテーマでもあります。しかし、この「幸せ」という重要なテーマに経済学が取り組み始めています。第2次世界大戦後の経済復興とそれに続く経済成長の時代には、経済成長がかなりの程度、人々の「幸せ」に結びついていると考えられていたため、多くの国で経済成長が政策目標とされてきました。現在でも中国をはじめとする新興工業諸国では云うまでもなく、日本でもなお重要な政策課題とされています。

それでは、多くの日本人にとって戦後の経済成長に見合っただけ「幸せ」になったのでしょうか。恐らく、多くの人の答えはノーと思われれます。所得水準がかなり低い人々の所得が増加する場合には、その人たちの「幸せ」に直接結びつくものと考えられますが、それ以上の所得水準に関してはそうでもないように思えます。

この問題に対する解答はまだ確定しているとはいえませんが、何種類か考えられます。まず、直観的にもっとも分かりやすいのは、「幸せ」に影響する要因が経済的条件以外にも多くあるというものです。近年マスコミでブータンの指標が取り上げられ話題になったので記憶されている方もあるかと思いますが、GNHといわれる国民総幸福量（Gross National Happiness）があります。豊かさ以外に環境や健康状態・社会・政治などの諸条件から決まるとされています。100数十国中でブータン8位で、日本は中位よりやや下との結果には驚いた方も多いのではないのでしょうか。

そこで、「幸せ」を直接の考察の対象とするのが「幸福の経済学」です。日本でのアンケート調査を中心とした興味深い分析が『日本の幸福度』として昨年刊行されています。内容についてはここでは深くは触れませんが、経済要因等から、かなりの程度「幸せ」が決定されるとの結果を得ています。

それでは、戦後日本が驚異的といわれる経済成長を遂げたのに、なぜ国民のほとんどがそれほど「幸せ」になっていないのでしょうか。もちろん、現在の経済状況が極めて悪く、失業者や低所得の人々が多いなどの格差を考慮すべきですが、平均的な人で考えてみましょう。1960年頃以降2005年くらいまでで、平均的な人の「幸せ」をGNHで数値化すると、アメリカ合衆国やEUではわずかに増加しているのに、日本は停滞しているとの報告がOECDの研究会で報告されています（MEASURES OF GROSS NATIONAL HAPPINESS by Ruut Veenhoven）。

このことを解く鍵の一つは、人間の相対的な思考法にあるように思います。所得が増加しても直接「幸せ」に結びつくとは限らず、むしろ他の人と比べて増えているかどうか重要となってくるのではないのでしょうか。言い換えると、行動経済学で指摘されているように、人間の「幸せ」はその人の基準となる「参照点」（ここでは基準となる所得水準で他者の平均と考えます）との比較で決まると言うことです。参照点を下回ると「幸せ」の度合いが下がり、上回る所得を得るとより「幸せ」になる。もし経済成長の結果、かなりの人々の所得が同じように増加すれば、「幸せ」はほとんど一定ということになります。

しかし他方で、教育・寿命などを考慮に入れた国連の人間開発指数HDI（Human Development Index）もあります。2010年では169國中ノルウエイが1位で、日本は11位とされています。ちなみに、データが揃わないためブータンはランキングには入っていませんが、寿命・教育からみるとほぼ中位くらいでしょうか。

このような「幸せ」を決定する条件として経済的要因以外のもの考えることに頷かれる方も多いと思います。教育・寿命などはそれ自体として個人の「幸せ」を増す要因ではないでしょうか。

マッセOSAKAも、市町村職員等に役立ち、「幸せ」につながる研修・研究組織として、これまで以上に努力してまいりたいと考えております。それがマッセOSAKAの使命であり、活動を通じて大阪府内市町村の活性化につながればと願っております。

最後になりましたが、本年が素晴らしい年となりますよう心からお祈り申し上げますとともに、皆様方のご健勝とご多幸を祈念いたしまして年頭のご挨拶といたします。